

皆さん、おはようございます。来週の聖句を紹介します。来週の聖句は、「あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です」コリントの信徒への手紙 12 章 27 節です。

皆さんは「スイミー」というお話を覚えているでしょうか？小学校の1年生か2年生の時、国語の授業で勉強したと思います。先日合唱部は、年に2回実施している「おねえさんといっしょ」というファミリーコンサートで、このスイミーのお話を歌と演技で子供たちの前で演奏しました。子供たちも、お父さんお母さんもとても楽しんでくださいました。今日のこの聖句を読んだとき、私はスイミーのラストシーンが思い浮かんだのです。

さて、スイミーのお話を思い出してみてください。スイミーは、真っ黒い色の魚で、誰よりも泳ぐのが早い魚です。そしてスイミーの仲間たちは赤い色でした。お話の最後、小さな赤い魚たちは協力して、海で一番大きな魚に変身します。そして、スイミーは「僕が目になろう」と言って、大きな魚の目になりました。小さな魚たちの作戦は大成功！大きなマグロを追い出すことができました。たった1匹、みんなと違うスイミーがいたからこそ、みんなは安心して暮らすことができるようになりました。

皆さんは今、7月に行われる聖霊祭に向けて準備を進めていると思います。限られた時間のなかで、クラスメートや部員同士、力を合わせて取り組んでいるでしょうか？意見がぶつかったり、予定通りに進まなかったりして、焦りや不安、いらだちを感じることもあるかもしれません。そんな時はこの聖句やスイミーの話と併せて、今日紹介しているこの聖句の前の部分も読んでみてください。そこにはとても素敵なメッセージがあります。神様は、個性の集まりが対立したり分裂したりしないように、「弱い部分」をあえてお作りになりました。その弱い部分が、仲間や自分にあるからこそ、調和が生まれ、いたわりあい、一つになることができると書いてあります。「弱い部分」は不必要なものではなく、私たちがそれを認めたり受け入れたりするとき、私たちは他者の痛みを理解したり、痛み悲しむ人々に寄り添える優しさを身に着けたりすることができるのだと思います。

金子みすゞさんの詩に、「私と小鳥と鈴と」という素敵な詩があります。

「鈴と、小鳥と、それからわたし みんなちがってみんないい」

この詩を読むたびに、私たちは、人間や動物にとどまらず無機物であっても同じ価値をもち、尊い存在であるということ、また、この世に存在しているという、そのこと自体がいかに素晴らしいことかを改めて感じることができます。しかし、今私たちが暮らす現代社会の考え方はどうでしょう？予想不可能な未来に備えて、生き残る力をもった人材が求められています。なんでもできる人、万能人間、適応力をもった人、幅広い人間力……。でも、生き残れない人、ついていけない人、弱さをもった人々の姿が、今の社会の追い求め、期待する人間像の中に見えるでしょうか？本当は、共に生きる力、人間の本来持っている弱さ不完全さを理解し、補い合う考え方がこそが、これからの社会に必要な不可欠だと私は考えます。

聖霊祭まで2週間、スイミーたちのように自分を生かし、お互いを補い、一人一人が持ち場を守って、みんなの力で聖霊祭を成功させましょう！